

先生方との懇親会コメント集

- ▶お酒の力を借りて、普段聞けないようなことも聞けました。来年以降も続けて欲しいです。
- ▶会長挨拶のとき、学生代表なのに先生方からあれは新任の教授か？などと噂されたのはいい思い出です（笑） 香員としては会を成功させられたことが何よりも、皆様のご協力に感謝しています。
- ▶私は消化器内科のテーブルに座らせていただきました。残念ながら教授が多忙のため急遽代理の先生の参加となりましたが、終始楽しい雰囲気や医局やクリニックのことなど話してくださり、有意義な時間を過ごすことができました。
- ▶みんなが楽しそうにしてくれて良かったです◎
- ▶来年研修でお世話になる先生方と話せて、とても貴重な会でした。
- ▶三次会までやってもらい色々な先生と話すことができ、いい機会だったと思う。
- ▶時間が短くて、3つの科しか説明を聞けないのが残念だった。
- ▶将来の進路についてかなり具体的な話が出来ました！
- ▶同じ科に興味を持つ仲間どうして座っているの、とても話が弾みました！
- ▶先生も学生と一体になって楽しんで下さったテーブルもあるようで嬉しかったです！
- ▶まじ親睦会であんな大荒れになるなんて、、、コールかかるなんて（笑） いいと思います！



ぐびろが丘



編集長
本田 徳鷹 (医学部メディア部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

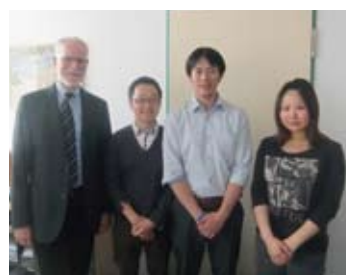
印刷
日本紙工印刷株式会社

高次臨床実習 憧れの国での実習

6年冠地 信和

4月2日から4月27日の4週間、ヴュルツブルグ大学の精神科病棟と緩和ケア病棟で高次臨床実習を受ける機会に恵まれました。

ドイツは、Kraepelin や Jaspers、Schneider といった有名な精神科医を輩出した国であり、精神科志望の私にとっては以前から訪れてみたかった国でもあります。その国に精神科の臨床実習で留学できることは私にとってこの上ない喜びでした。ヴュルツブルグでは良い意味でカルチャーショックとなることなく、採血は日本では医療者の仕事ですが、ドイツでは医学生の仕事なのです。毎朝4、5人の患者さんの採血を行わせていただきました。正直、日本ではほんの2、3回しか実際の採血をしたことが無かったので、初めのうちはなかなかうまくいきませんでした。しかし、医師や看護師の方はもとより、患者さんも「心配しないで、頑張れ！」と励ましてくれたお蔭で、実習の終わりには何となくコツがつかめてきました。採血が終わると患者さんも「Danke schön (ありがとうございます)」、私も「Danke schön (ありがとうございます)」と、私（下手な採血に耐えてくれたことに対して）「Danke schön (ありがとう)！」と言いつつ、



ライナー教授、森田、古川、冠地

日でした。ヴュルツブルグ大学の精神科では基本的に内科診察や神経診察も行っていたため、精神科にとどまらず内科全般の診察を行う機会にも恵まれました。

精神医学における日本とドイツの一番の違いは、精神療法と心理療法の位置づけだったのではないかと思います。ドイツでは薬物療法と心理療法の力の入れ方が同等で、心理療法専門の病棟も存在しました。この点、日本では心理療法の重要性が強調されているとはいえず、諸事情から薬物療法がメインになっているのが現状ではないでしょうか。ユニークな心理療法をたくさん見学できたのは大きな収穫でした。心理療法の緩和ケア病棟でも多く用いられ、今後の日本における緩和ケア医療においても心理療法が重要な役割を持つのではないかと実感しました。

実習を通じて実感したのは、会話を通じて患者の病状を記述し、了解するという行為の大切さでした。教授回診では一人ずつ部屋に呼び入れて回診時以外でも入院患者さんは医師とアポを取って頻繁に面談を行って



精神科のデカート教授と

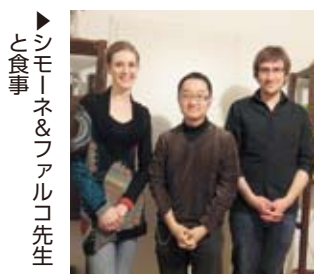
ました。患者さんが抱える悩みや問題を共有することは全ての医療分野で大切ですが、客観的な検査手段に乏しい精神科では会話は症状の把握をするうえで特に重要です。将来精神科に進んだ時にも、対話の大切さは忘れないようにしたいと思います。

この他にも精神科病棟の研究所を見学したり、ZINIS (近赤外光スペクトロスコピー) と呼ばれる先端機器を見学したりと、この紙面には収まりきれないくらいたくさん経験を積むことが出来ました。勉強だけではなく、休日にはドイツ国内の旅行を楽しむことが出来たので、私にとって素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。ヴュルツブルグにはたくさんの教会があり、私も信者として全部の教会を参詣したかったのですが、あまり



指導医の先生たちと食事

2番目の実習の質問ですが、少なくとも精神科に関しては十分な実習が出来たと思います。語学の壁があること（カ



シモーネ&ファルコ先生と食事

最後に海外の高次臨床実習を受けようか迷っている学生にひとこと。私の経験から、海外高次臨床実習に躊躇する理由は大きく分けて二つの理由があると思います。1つ目は語学の問題、2つ目は実習の質の問題で、『単に海外の大学に行っただけで、実習自体の質は下がるのではないかと不安です。語学の問題に関しては確かに日常会話が出来ないとも自分が専攻する分野のメディアカルチームはある程度わからないと思

最後、海外の高次臨床実習を受けようか迷っている学生にひとこと。私の経験から、海外高次臨床実習に躊躇する理由は大きく分けて二つの理由があると思います。1つ目は語学の問題、2つ目は実習の質の問題で、『単に海外の大学に行っただけで、実習自体の質は下がるのではないかと不安です。語学の問題に関しては確かに日常会話が出来ないとも自分が専攻する分野のメディアカルチームはある程度わからないと思

最後に海外の高次臨床実習を受けようか迷っている学生にひとこと。私の経験から、海外高次臨床実習に躊躇する理由は大きく分けて二つの理由があると思います。1つ目は語学の問題、2つ目は実習の質の問題で、『単に海外の大学に行っただけで、実習自体の質は下がるのではないかと不安です。語学の問題に関しては確かに日常会話が出来ないとも自分が専攻する分野のメディアカルチームはある程度わからないと思

高次臨床実習

ドイツ留学レポート

今回、6年次高次臨床実習の1タームを交換留学先としてドイツのヴュルツブルグにある大学病院で行なった。あまり馴染みの無い都市かもしれ

ないが、ヨーロッパのバツケーリツァーなどで、ロマンチック街道を旅行する際にスタート地点となる都市である。マリエンベルク要塞や、レジデン



緩和ケア病棟の面々

ツといった観光名所があり、近年公開された映画『銃士』で王宮が出てくるシーンは全てこのレジデンツで撮影されている。実習期間は約4週間、

6年古川 由人

そのほぼ全ての期間をトラウマ外科で過ごした。トラウマ外科は外傷のみに対応する科である、チームは大きくは整形チームと形成チームに分かれており、カンファは一緒にいない、病棟も同じであった。

Dr達の1日の流れは、午前7時から回診、朝7時30分からモーニングカンファ、8時過ぎにオベがスタート、15時30分に午後カンファは始まり、17時くらいに終了。オベ室は外傷専用が4室あり1日15〜20症例ほどであった。オベが終了した日勤のDrはそれで帰宅、オベが長引いていたりしなければ18時までには基本的に帰宅していた。

自分の1日の実習の流れは、何をしてもいいこと、回診と画像が多く使われるモーニングカンファに出席し、オベは最低でも一日一回術野に入るようにした、残りの時間は病棟で学生と採血等を行ない、残りの時間は救急を見学、オベの見学をしていく。日本の病院実習と大きく違う点は、採血や注射、患者へのオベの説明は学生の仕事で、当直もあり日本のDr1年目の雑用を学生がするような印象を受けた。また学生が縫合させてもらったと言って喜んでいたので、オベでの学生のポジションは日本と同じなのだ感じた。

週間程度の実習が可能だったため、そこが悔やまれる。2点目に、今回、救急も少し見学したが、ドイツでは一つの科が一つの建物を持っていることも多く、救急部も別れており、搬送される時点で何科に行くかが決まっている、それぞれの救急に運ばれる患者数は多くても一日に三件程度であり、日本の救急の実習とは大きく違った。3点目に手技という点だ、留学先を選ぶ際に、ドイツでは積極的に希望すれば色々させられる、という話をきいていたのだが、実際は日本の高次臨床実習でも回る科を選べば同じことは学べると思う。

次にドイツで実習をした。二年前に東方神起（5人）を好きになり、それから韓国語を勉強しようと思いつき、独学で勉強を始めた。これが私の韓国に対する興味の始まりでした。それまで韓国ブームにも眉間に皺を寄せ、何それ？という感じだった私ですが、ある友達のお勧めで、まんとドハマりしてしまっただけです。

私が行ったのはソウル市内から車で40分程南下したジョンチョン（日本という横浜のようなところ）というところにあるハリム大学聖心病院です。800床を有する市内の中核病院です。そこでは小児科、Burn Center、形成外科でそれぞれ実習させてい

てよかった点は、まず、ほぼ全てのDrと学生が英語を話せる、という点がある、発音もはっきりしているの日本人にはとても聞き取りやすく、非常に助かった。語学という点に閉じていたが、海外の学生は臨床実習を自国以外で行なうことが当然で、自分で実習先を探し、非常に驚いた、ほぼ全員が英語でコミュニケーションを取れるから成り立つシステムで、日本での英語教育の遅れを感じた瞬間だった。また病棟では実習前半は学生に付いて業務をこなしたが、後半は単独で行動し、英語の通じない高齢者の採血をして何度も失敗したが、何とかこなすことができた。

今回の実習は1ヶ月と短い期間で、時に「何を言おうとしているのか分からない」と、言われ英語力不足を実感することがあったが、辛いながらも全てのが日本では得られない非常に良い経験となった。また、週末は鉄道バスを最大限活用して時間の許す限りドイツ国内や周辺の国々に足をのばした、イタリア・ペネルクス諸国などそれぞれの国々でもまた様々な経験をしたが今回の実習とは直接関係が無いので割愛する。

二年前に東方神起（5人）を好きになり、それから韓国語を勉強しようと思いつき、独学で勉強を始めた。これが私の韓国に対する興味の始まりでした。それまで韓国ブームにも眉間に皺を寄せ、何それ？という感じだった私ですが、ある友達のお勧めで、まんとドハマりしてしまっただけです。そういうわけで、高次臨床実習も絶対韓国に行こうと思いつき、運よく行くことができました。

高次臨床実習 東方神起の導き

6年栄 由貴



二年前に東方神起（5人）を好きになり、それから韓国語を勉強しようと思いつき、独学で勉強を始めた。これが私の韓国に対する興味の始まりでした。それまで韓国ブームにも眉間に皺を寄せ、何それ？という感じだった私ですが、ある友達のお勧めで、まんとドハマりしてしまっただけです。そういうわけで、高次臨床実習も絶対韓国に行こうと思いつき、運よく行くことができました。

次に形成外科です。韓国の医学生の中では形成外科はとても人気で、理由はお金をたくさん稼げるからだそうです。カンナム（日本でいう表参道みたいなところ）地区にはたくさんの美容外科が軒を連ねます。

やはり整形大国韓国ならではの文化を感じました。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国にいます。高度経済成長のころの日本をみて、韓国には見えない魅力を感じました。韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

高次臨床実習 ライデン大学にて学んだ日々 6年難波 夏美



再度感じました。韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

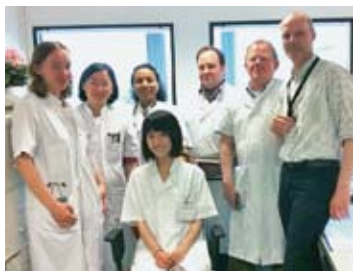
韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。

韓国には、整形大国と呼ばれる文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。韓国では、女性に整形を受けることが当たり前の文化があります。





What do you think?
What is the differential diagnosis for this case?
What do you think about her/his heart (lung) sound? などなど。

これら容赦ない質問に対し、たじたじになったり勉強不足を痛感することも多かった。とりあえずなんとか知識を絞って頑張る答えが、わからないと途端に拙い英語になったりもしました。でも、オランダの学生はみんな自信もって答えていました。たとえめちゃくちゃなこと言っている。はったりかなと思ってしまうこともしばしば。ただ答えが理路整然としていたり、良い線行っているというポイントにほめてもらえるのでモチベーションがあがります。やる気が出ました。でもわからないときは質問ある？とよく聞かれるので毎回勇気をかき集めるところに質問しました。

本当に積極性が一番大切な国なので、どんな考えにしろ、実習に対する希望にしろ、何でも理論的に考えを述べるのが大切だということをつくづくと学んだ毎日でした。そして何よりオランダの

多き実習をさせていた機会を下さった小路先生をはじめとする諸先生方、留学費用を貸与してくださいました医学部同窓会の先生方、いつも支えてくれる家族や友人にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。この経験を活かして心豊かな医師になるべく、これからもますます精進してまいります。

医学部の積極的で質問をよくすること、学生ながら病棟業務をある程度任されているという責任感の大きさ、自分の考えのプレゼンテーション能力の高さにはっとし、同じ医学生として身が引き締まる思いでした。感染症のことだけでなく、自ら学ぶ姿勢、質問想起能力など医学生としての自分の在り方についても考え直すとても良い機会だったように思います。

最後には希望して帰国前日だったけれど、ずっと持たせていただいていた肝移植後のサイトメガロウイルス感染の患者さんについての症例発表をさせていただくことができました。たくさん関わってきた患者さんについて臨床症状と照らし合わせてから、最後の3週間かけて自ら論文などで調べて学んだことをまとめて発表させていただけました。私にとって本当に忘れられない出来事だと思いがけない経験だったように思います。

今回、このような実り多き機会を下さった小路先生をはじめとする諸先生方、留学費用を貸与してくださいました医学部同窓会の先生方、いつも支えてくれる家族や友人にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。この経験を活かして心豊かな医師になるべく、これからもますます精進してまいります。



サークル紹介

写真部

はじめまして、わたしたちは医学部写真部です。写真部は創部5年目、現在25名の部員で活動しています。部員は医学科だけでなく、保健学科の部員もいます。まだ多くの人に知られていない写真部のことを少しでも知っていただくために、サークル紹介をさせていただきます。

○医学部写真部って？
写真部というとみなさん黒くて大きな一眼レフを首から下げて、自然や風景の写真を三脚とかを頑張って撮影しているようなイメージはありますか？少くとも書いてある僕自身、入部するまでそう思っていました。しかし、私たちが写真部はそんな部ではありません。写真を撮ることが好きな人たちが、手持ちのカメラで自分の好きなものを気軽に撮る。そんな集団です。それ以外の制約は何もありません。

写真部には普通のデジタルカメラが複数あります。もちろん写真に深く魅入られた人たちは一眼レフカメラを持っていますが、写真部に入るといいカメラを持てない必要はありません。いいカメラを持っていくから絶対いい写真が撮れるわけではなく、実際、場合によってはデジタルの方がいい写真が撮れたりします。

活動内容

○活動内容
写真部は月に一度の「院内写真展」・「撮影会」を活動の軸にしています。

院内写真展では大学病院1階の病棟へ向かう廊下の壁を一部お借りして、部員たちが撮影した作品を展示させていただきます。撮影会で撮った写真や、それぞれが旅先で撮った色とりどりの素敵な作品たちが飾られています。ですので、通りかかる時ができれば是非一度ご覧下さい。

そして撮影会についてですが、月に一度集まっていますが、長崎の各所で街を歩きながら写真を撮っています。ただ歩いていくだけなら見過ごしてしまうようなモノや場所でも、少し見方や切り取り方を変えるだけでいい写真が撮れたりするの楽しいです。新しい発見もあつたりします。また他の人がどんな写真を撮っているのかを見るのも面白いですし、勉強になります。撮った写真をその日のうちに鑑賞会として部員同士で共有することもあり、それもなかなか楽しいです。

その他にも春回会井上病院にも写真を展示させていただきます。街を歩いた時のスナップ写真や、ふとした瞬間の出来事や表情などを撮ったりした写真も多々です。このように写真は気軽に楽しく撮ることが見つけられ、それが作品として展示することを目標にしています。



Mail:nmpc09@gmail.com

◎第51回九州山口医科学学生体育大会結果報告

バレーボール	男子 ベスト8 リーグ戦 佐賀1-2 九州1-2 トーナメント戦 久留米2-1 山口0-2	女子 ベスト4	
バスケットボール	男子 入賞なし	女子 入賞なし	
卓球	男子団体 4位 ダブルス 3位 池田・河西組 シングル 3位 小路永	女子団体 優勝 ダブルス 優勝 有田・芝組 シングル 優勝 有田 3位 桃下	
バトミントン	男子団体戦 準優勝 男子個人戦 ダブルス 3位 中村俊貴・本多貴一組 男子個人戦 ダブルス 3位 平山拓朗・末原照大組 男子新人戦 シングル 優勝 村端 亮	女子個人戦 ダブルス ベスト8 浦壁彩那・神田萌組	
剣道	男子団体 3位 男子個人 2位 福本将之	女子団体 1位 女子個人 1位 溝口千乃 3位 今林晴佳	
空手道	男子個人形 優勝 増田太郎 準優勝 下村太郎 男子個人組手 3位 本山和樹	女子 入賞なし	
弓道	コメディカルチーム団体優勝		
準硬式野球	準優勝		
ラグビー	1回戦敗退		
サッカー	入賞なし		
硬式テニス	男子団体 優勝	女子団体 二回戦敗退	
ソフトテニス	男子団体 3位 ベスト8 鳥矢・田中ペア、宮崎・神田ペア ベスト16 近藤・町田ペア	女子団体 4位 ベスト16 高村・溝口ペア ベスト32 林・森内ペア、平野・長谷川ペア、古川・富田ペア	
水泳	総合1位 男子2位 女子2位		
ボート	対校3位 シングル 2位 竹田		
ウインドサーフィン	エキスパートテクノクラス 58位 原口 紘 (5年) 60位 迎 祐太 (5年) ビギナーテクノクラス 17位 是松伸之介 (2年) 18位 田島浩之 (2年) 20位 川田 賢 (2年)		
陸上	男子総合 2位 男子フィールド 2位 800m 優勝 池田 圭 走高跳 優勝 白石斗士雄 やり投 優勝 白石斗士雄	女子総合 3位 女子トラック 3位 400m 優勝 樋口真帆 400×100mR 優勝 形山-樋口-鎌田-中里 400×400mR 優勝 形山-鎌田-中里-樋口	

《学生の声 in 目守箱》

@面接について

E：そろそろマッチングの季節だな。
 N：先輩、マッチングってなんですか？
 E：研修病院決定のための就活だろ、6年生！
 S：何すればいいんですか？
 E：登録して願書書け！
 Ho：面接とかあるのかな？
 E：長大は面接だけだね、筆記試験あるところもあるけど。
 Y：長大の面接どんなんだったんですか？
 E：雑談…
 A：もっとそこどころ詳しくお願いします（笑）
 E：志望理由とか将来長崎に残るかとか人によっては武勇伝とか聞かれたらしい。
 N：武勇伝ですか!？
 Hi：酒を飲んで道で…
 Ho：学生に武勇伝って酒の話とかしかないような（笑）
 E：他はもちろん長所短所とかは聞かれた。
 Y：長所ある？
 N：伸びしろがあることです。
 Y：短所は？
 N：他に長所がないことです。
 Ho：それだめだね…

@どうやったら後輩が増えるか本気で話し合ってみた。

Ho：そろそろ我々の代が卒業だからね。
 S：広告費を集めて給料を出す！
 Hi：採用された記事を書いた記者に金を出す！
 Ni：部員は少数精鋭、記事を幅広く集める！（金で）
 A：活動時間があり得ないくらい短いのに！
 Y：その分認知度が低過ぎるのが問題だ！
 Ni：じゃあ認知度を上げてやればいいじゃない！
 Ho：どうやって？
 Ni：合否判定の上から新聞貼ればいい！
 S：ショックを受けている留年生に話しかけてどんどん引き込んで行く！
 A：その手口はあの宗教の…
 K：合格発表で捕獲！そして拉致！からの解放！
 S：解放するんかい、解放って言いたかっただけだろ！
 Hi：あとは看板作ってYのアドレスを晒す！
 Y：いや…それは…ちょっと…
 K：メディア部の存続がかかっているんだ！自分の身を削らなくてどうする！俺は嫌だけど…
 Ho：ひとまずYがんばれ！
 E：ひとまず何か部活に所属したいだけの人でもOKなので是非宜しくお願いします。
 とりあえず興味がある人はdarutaNiaN.898…
 Y：やめてー！

@理想の医師像とは

Ho：今度マッチングで理想の医師像を聞かれるからみんなの意見を聞かせてくれ
 S：私用じゃねーか！まあ話すことないからいいや、理想の医師を考えようぜ
 Hi：私は金を稼ぎたい！そのためには患者様に信頼され、人気を得なければならない！そのためには人格的にすぐれ、また確かな医療技術も持ち、常に最新の情報を得るような努力を怠らない。そんな医者にはなりたい。とかでよくな？
 E：なげーよ！
 Ni：金を稼ぎたいまで聞いてた。
 A：ポンペみたいで固い石のような意志を持つ医師になりたいです。はどう？
 K：お前ポンペさんの何知ってんだよ？
 A：来航した年！基礎棟のパスわっ!?ムー!?（EがAの口を塞ぐ）
 E：おっと発言には気をつけろ！
 Hi：じゃあ9時17時、3食昼寝付きとか
 Ho：確かに！それは「理想」の医師像だな（笑）
 E：（研修医）あくまで理想…
 Y：患者さんにとって理想の医師像にしようよ。僕が前入院した時は背中が搔けなくて大変だったんだ。このことを考えると…
 K：まさに痒いところに手が届くような医者ってことか！
 E：うまくないから…
 Y：まあ何はともあれ僕は患者さんの気持ちを汲み取れる医者かな。
 Hi：私はやっぱり金を稼げる医者かな。
 K：俺はどんな場面でも対応できる医療技術を持った医者になりたいな。
 Ni：まあみんな違ってみんないいということで。
 Ho：やっぱり、自分で考えるよ…。

編集後記

今回は、懇親会に高次臨床実習と、我々6年生関連の記事が多くなりました。

また、いよいよ卒業試験となり、大学を去る日が刻一刻と近づいているのを感じます。

『ぐびろが丘』の仕事もどんどん後輩に引き継いでもらい、また新しい形の新聞にしていってほしいと思います。

読者の皆様も是非これからも見守っていただきたいと思います。

宜しく申し上げます。
 （本田徳鷹）

暑い夏もそろそろ終わり、庭からコオロギのなく声が聞こえてくるようになりました。家で育てていた青虫たちも、夏の暑さにも負けず、無事に美しい蝶となり、大空へと旅立って行きました。

私自身も、この青虫たちのように、やがて蝶となる事が出来ればと思います。

それでは今後ともよろしくお願ひいたします。
 （山本直毅）

最近、部活ではふてくしくし、ポリクリではペコペコし、今まさに自分が学生と社会人の狭間にいるんだな、と実感させられています。そして、来年はとうとう卒業！ほんとに早いものです。6年生の先輩方は卒試に国試と大変だとは思いますが、頑張ってください。

僕は今回で、編集委員の任期が満了します。お世話になった先生方、ぐびろが丘を読んでくださった方、本当にありがとうございました。これからは一読者として、ぐびろが丘を楽しみにしています！
 （川床健司）

あっという間に夏休みも終わりました。5年生のくせに半分以上を部活に捧げた私は、すっかり真っ黒になり、白衣が似合わない中でポリクリが再開しました。

人生でこんな黒くなるのもあと1年。文武どちらも疎かにせず、むしろ相乗できるような時間の使い方をしようと思います。
 （小嶋翔子）